

## 17. 農学部、附属農場

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 47 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 48 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

### 〔特色ある点〕

- 教養・共通教育については、フィールド研究に強みをもつ農学部の特徴を活かして、ILAS セミナー（海外）を提供し、中国、タイ、フランスでの学生研修を実施している。受講生の中にはこの授業の受講を契機にして短期留学や専門課程における研究課題に発展させる者もあり、学生の視野を広げる役割を果たしている。また、他学部からの受講生にとっては農学部の学生たちと意見交換しつつ、農や食の課題をグローバルな視点から考える機会となっており、農学部での教育・研究関心を広く普及させる効果を生み出している。
- 専門科目では、農学に関連する最新の研究成果を取り込んだ学識の修得、および各学科別の専門性を深める科目を多岐にわたって提供し、科目のナンバリングにより基礎からより専門的な内容へと段階的に理解が進むように編成しており、特に3年次以降に実習、実験、ゼミなどを充実させている。
- 平成28年度に附属農場が、教育関係共同拠点として認定され、「次世代の農と食とエネルギーを創るグリーンエネルギーファーム教育拠点」として、「グリーンエネルギーファーム論と実習」を実施している。本科目では、附属農場で夏期集中宿泊（4泊5日）による講義および実習を行う。グリーンエネルギーファームに関する現在の問題と将来の展望について解説し、グループワークによりその議論を深めるとともに、農作物の栽培実習と調理実習により農業生産と食への理解を深める。平成28年度から令和元年度までに、累計14名が受講し、13名が単位を取得した。
- 多様な学生の受入れを企図として、平成28年度入試（平成27年度実施）において特色入試を、食料・環境経済学科1学科が先行実施し、次いで、平成29年度入試（平成28年度実施）において、全6学科での本格実施をしている。平成28年度から令和元年度までに、志願者は延べ242名、合格者は延べ46名、入学者は延べ46名となっており、特色入試による合格者は、入学後もリーダーシップを発揮して積極的に活動している者が多いという特徴がある。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 第3期中期目標期間（平成28年度～令和元年度）における農学部において取得可能で特徴のある免許・資格のうち取得者数は、中学校、高等学校教諭一種免許状は25名、食品衛生管理者・監視員の任用資格は50名、樹木医補は16名、自然再生士は13名、施工技術検定規則1級及び2級受験資格は6名となっている。
- 平成28年度～平成30年度の卒業時アンケートでは、農学部における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の4項目について、卒業対象者に達成度を確認している。「十分に到達している」と「到達している」の割合を合わせると例年ほぼ80%となっており、農学部の教育における満足度は高いと言える。